

今月の「輝き！」さん

No. 107



石川建設工業株式会社 えがわひろと 江川寛翔さん

所属：土木部
経験年数：2年11カ月
年齢：21歳

白山市鶴来水戸町の現場事務所に「今月の輝きさん」を訪ねました。

—あなたの会社について教えてください。

弊社は昭和23年創立で、道路建設や橋梁維持、耐震補強工事等の一般土木工事をはじめ、鉄道の保線や軌道新設工事等を手掛けています。私は、土木部に所属し昨年5月ごろから手取川災害復旧工事の現場で現場監督として頑張っています。

—令和6年能登半島地震では大丈夫でしたか。

地震が起こった際は、能美市の自宅で震度5を観測し、かなり揺れを感じました。幸い棚のものが床に落ちた程度で済みました。現在担当している現場も被害はありませんでしたが、弊社からは被災現場の道路啓開業務や七尾線復旧工事に多くの社員の方々が出動しています。

災害現場の話聞き自分も災害復旧で活躍できるようになりたいと思いました。

—建設業を選んだ理由、入社した動機等について教えてください。

小学生の頃、自宅近くの手取川橋を通り「どうやって作ったのだろう。」と思い、橋の工事に興味を持ちました。小松工業高等学校建設科を卒業し、インターンシップや現場見学等を経て土木の道に進みました。求職票やホームページ等で、若者の育成や採用、福利厚生が充実していると感じた石川建設工業株式会社を

選びました。

弊社は、先輩方が優しく目上の方でも話しやすい環境です。毎月行われる土木部の全体会議では、それぞれの現場の状況や取り組み等話し合ったりします。毎年チームで行う金沢城リレーマラソンへ出場し、よい雰囲気で大変働きやすい会社だと思えます。

—これまでで思い出に残る現場、苦勞した現場はありますか？

入社1年目の北陸新幹線の高架下整備工事と、一昨年の加賀市内鋼橋の工事現場が印象に残っています。高架下整備工事は、何も分からない状態で先輩方から色々教えて貰ったことが印象的でした。また、鋼橋の工事現場ではタイヤチェーン装着場所への連絡橋工事で、もともと『橋』に興味があったことから特に印象に残っています。

—仕事の苦勞や、やりがいを感じる時、心がけていることはありますか？

現場の監督業務ですから、協力会社さんたちと打ち合わせをしっかり行い、スムーズに作業が進行していくこと、そして転落・落下事故防止等の安全管理に努めることを心がけています。

何もない所から構造物が出来上がることから、完成した現場を見たときの達成感は素晴らしく、担当する現場作業にやりがいを感じています。

—将来の夢、目標は？

高校時代に先生から言われた「頭を使え、何事も考えろ。」を忘れず、早く一人前の現場責任者になれるよう日々努力していきます。

今年の秋頃に土木施工管理技士2級試験の合格を目指しています。同時に高校での職場見学で体験したドローン操縦技術を取得したいです。

—最後に建設業を目指す後輩たちに一言。

私は、寒い場所が苦手でしたし外仕事に不安がありましたが、電熱ベストやカイロ、ネックウォーマー等で乗り切ることができています。ICT技術等で作業の効率化も進んでいますので学校で学んだ知識や経験は必ず活かされると実感する時が来ます。積極的に学び、経験し、土木の道に進んで欲しいと思います。是非、石川建設工業株式会社と一緒に働きましょう。

エフエム石川

けんせつ一番星☆

[-Sunset Express-MOVE]
毎月第4火曜日 18:00~18:05

今月放送

3月26日(火)

エフエム石川で毎回、建設業界で働く業界のホープ「けんせつ一番星☆」の方にインタビューし建設業界の魅力や仕事への意気込みなどに迫ります。是非お聞きください。